フィールカインド　神奈川県大和市福田1624-6　☎046-279-6373　http://feel-kind.com/

注入した液体が金属へと変化する「第3の金属」と言われる進化剤の実力を試す

「進化剤」という言うチューニングアイテムを耳にしたことはあるだろうか。ケミカルと認識している人もいるかもしれないし、ちょっと怪しいパーツ系と考える人もいるだろう。論より証拠、実際に試してみることにし、BRGレガシィを用意。

この進化剤、ただ注入すればいいというものではないという。「アイドリング状態の間に、負圧を利用してエンジン内に液体が行き渡るように施工します。この作業の前に、アクセルレスポンスを確認してもらいます。これは施工後の違いをみてもらうため。この進化剤は金属に張り付く性格があります。60度以上の熱を加えることで細かいキズに入っていき、アルミだったらアルミ、鉄なら鉄と部材に合わせて変化するんです。また冷える過程で表面硬度を上げます」と井上さん。

ピストンなど摺動部にはどうしても細かいキズが生じてしまう。そのキズに進化剤が張り付き、動きをスムーズにすることでレスポンスアップにつながるという仕組み。施工後のエンジンオイル成分を調べた結果、進化剤の成分は検出されなかったというから、これは部材の一部となった証明なのだ。

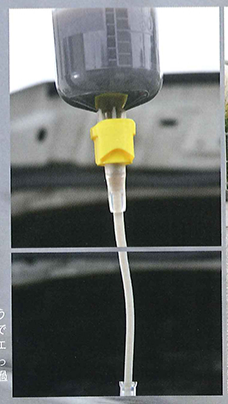
「ただし、入れれば終了ではありません。入れた後にセッティングを行います。エンジンの振動、引っかかりを取り除いてやって初めて効果を発揮するのです。自動車に限らず、船舶や建機なども施工実績があります。船舶ともなると違いは相当大きいです」（井上さん）。

バラつきのあるエンジン（過走行に加えエンジンオイルの交換をしばらくしていなかった）が、施工＋セッティングを行った後は、スムーズに吹け上がる。特に2000〜3000回転の力強さを感じた。坂道でとくに体感できた！

エンジンはノーマルだが10万kmオーバーの過走行車両。エンジンオイルの交換は定期的に行うが、施工前はしばらく間が空いていた（施工直前に交換）。

進化剤を注入したら、アクセルを調整してセッティングを行う。これが井上さん独自のノウハウなのだ。進化剤を入れて変える、と言う。

「手強いエンジンだな」と井上さん。最初ガラガラいう音がしていた。しかし進化剤を注入している途中で静かになるのがわかった。



人間の点滴と同じようにじっくり流し込んでいくのがポイント。エンジン音が静かになっていくのが時間の経過とともにわかる。

「どんなエンジンにも合わせられる」が、入れすぎるとエンジン内で浮遊する分子が増えることになるため、かえってエンジンが重く感じるようになるとか。

1本100㎖を入れる。内燃機関用の液体で、外燃機関用もラインアップされている。液体が落ちる速度を調整しながら施工していく。

岡直樹